



#### 目次

- 一特別掲載一 「新年度の挨拶」…………… 2
- 一会員の声一 「医師会病院の危機的経営状態を克服しよう」… 4
- 一お知らせ一 「電子カルテ導入に向けて」…………… 5
- 一新入職員紹介一…………… 6

## 特別掲載

### 新年度の挨拶



鹿児島市医師会病院

院長 田畑 峯 雄

東日本大震災の発生から1年。政治の機能不全で瓦礫処理、除染処理ははかどらず、何時故郷に戻れるのか、生活再建の目途はいつになったら立つのか被災地の復興は遅れています。被災地の人々の心の傷が癒え、速やかな復興から再生へと繋がることを願っています。

平成24年度の診療報酬と介護報酬の同時改定は医療報酬ネットプラス0.004%、介護報酬1.2%増で決着しました。重点課題の1つ目は急性期医療の適切な提供に向けた病院勤務医等の負担の大きな医療従事者の負担軽減、2つ目は医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化の推進及び地域生活を支える在宅医療等の充実で、これらに財源は配分されました。中身を見ると大病院に有利なのは前回改定と同様です。DPCの見直しにしても、新設する基礎係数は3群に分類され、大学病院(80病院)や大学病院に順ずる診療密度の高い機能を持つ病院群(80病院)に高い係数が割り当てられ、一般病院と差をつけようとしていま

す。医師不足の改善策としての病院勤務医の処遇改善は喫緊の課題とされてきましたが、中小病院では増収分は病院の赤字補填に当てられているのが現状です。在宅医療を重視し、患者の看取りや緊急時・夜間の往診など医師の訪問診療を促していますが、要件を満たすには高いハードルを設けています。介護報酬は「介護職員処遇改善交付金」が介護報酬本体に組み込まれ、実質はプラスとはいえないようです。厳しい財政難の中、今度の改定はある程度評価されているようですが不十分なのは自明です。

このような厳しい状況下で会員の先生方と医師会病院の双方にプラスなる事項もあります。救急搬送患者地域連携紹介加算が500点から1,000点、同受入加算1,000点から2,000点に引き上げられるとともに、対象患者を入院5日以内から7日以内に拡大され、同一医療機関が紹介加算、受入加算いずれも届出可能となりました。もう1つは感染防止加算1,400点、同2,100点を算定する医療機関は、加算1を取っている

施設が年4回以上合同カンファランスを主催し、加算2の施設がそこに参加することが条件として設けられました。ご相談したいと思いません。

平成23年度も医師会病院にとっては大きな動きがありました。小児科医不足で大学医局から鹿児島市立病院に集約したいとの申し入れがあり、昨年4月から小児科当直体制は不可能となり7月には平成16年度から取り組んできた小児救急医療拠点病院を返上しました。小児科病床は9月から27床から9床に縮小し時間内だけの急患受入体制となりました。現在の小児科医2人体制が何時まで続くのか現時点では結論は出ていません。

看護師不足により昨年9月から一部病床を縮小する事態に陥り、急患受入に支障を来し会員の先生方にはご迷惑をおかけしました。院内保育所の設置を始めとした処遇改善で看護師の定着に努力いたします。

手術や画像診断・内視鏡検査などは前年度とあまり変わり有りませんでした。以上のような状況で入院患者の減少を来し23年度の病院の経常収支は厳しい結果となりました。現在、連携室の職員が会員施設を訪問し、ご意見・ご要望を伺っております。先生方から頂いたご要望・ご意見は職員に還元し意に叶うように努力したいと思います。ご要望があれば各診療科の所属長・看護師長にも同行させたいと考えています。できましたら各支部会などに出席させていただき、当院の各診療科の所属長の自己紹介、診療内容などを紹介させてもらいたいと思います。

昨年10月には病院機能評価 Ver6への更新受

審があり今年1月に認定証の交付を受けました。機能評価機構を受審することで医療安全対策、接遇問題、チーム医療の推進など医療人にとって基本的なことが再確認できました。患者・会員の先生方に評価していただけるよう努力してまいります。

今年3月8日にシンチグラフィーの新規更新をいたしました。従来の機種に比べ骨シンチ、ガリウムシンチなどの検査時間は1/3程度に短縮され、認知症の早期発見など脳機能の解析や心臓CTとの融合画像の作成も可能となりました。64列MD-CTの導入、MRIの更新に加えてシンチグラフィーの更新と画像診断部門が充実いたしました。是非ご利用お願いいたします。会員の先生方からの病理組織・細胞診検体はご依頼が数年来減少傾向で、今回の改定の減点に危機感を持っています。細胞診は婦人科のご依頼を中心に多くの検体をお受けしていましたが、本年度の診療報酬改定で液状化検体細胞診加算が認められ当院でも導入いたしますので今後ともご依頼のほどよろしくお願いいたします。

日本医療マネジメント学会第3回鹿児島県学術集会を5月12日(土)に鹿児島県自治会館において医師会病院主催で開催することになりました。テーマはチームで取り組む安全で質の高い医療です。詳細は医師会病院ホームページに掲載しておりますので、演題登録、ご参加をお待ちしています。

会員の先生方とさらにスムーズな連携を職員一同心がけてまいりますので、今後ともご指導・ご支援をお願い申し上げます。

## 会員の声

### 医師会病院の危機的経営状態を克服しよう

#### はじめ

鹿児島市医師会病院は昭和59年6月の開設以来、早29年目を迎えようとしておりますが、医師会病院がこれまで果たしてきた役割は大きく、患者さんの為にも、また、会員の為にも多大の貢献をして来たと思います。また、加うるに、これまで多くの先生方が鹿児島市医師会病院に一度は勤務し、医師会病院イズムとも言うべき、臨床医スピリットの洗礼を受け、臨床第一線で活躍しております。鹿児島市医師会の関係役員の先生方のこれまでの御努力や御苦勞に対し、心からの感謝と深い敬意を表したいと考えます。そして、今後も、医師会病院の大いなる発展を期待し、会員として、また、鹿児島市内科医会の医師会病院運営委員会の委員として、現在、思うことを述べてみたいと思います。

#### 医師会会員としてのお礼

まず、一会員としては、医師会病院開設以来、当院からは様々な患者さんを御紹介し助かっております。紹介後は、共同指導に医師会病院に出来るだけ出向くよう努力し、連携を深めております。退院後は、医師会病院から退院総括が返書として届けられ、また、外来の場合も検査や診察結果を頂きます。これは、自ら経験した症例の反省材料でもあり、後に経験する患者への参考資料にもなり、大切に保管しております。最近では、これらの資料はスキャナーを用いてコンピュータに取り込んでおります。これらの資料は私にとりまして臨床上の大事な宝であり、財産であります。また、患者さんが救われると同時に、紹介側の医師としても助けていただいた症例が多々ありま



鹿児島市内科医会  
会長 中村尚人

す。これらの症例中には、当院で処置していれば、トラブルにもなりかねなかった患者さんや訴訟目前で事なきを得た患者さんもおります。また個人的にはこれまで2回も入院し、また、家族、親戚、また、職員共々、検査や入院等でお世話になっております。多分、多くの会員の先生方も私と同じ事情ではないかと思えます。かつて、医師会病院の開設当時は、一般の方々は、医師会病院とは、医師会の先生方が病気になったときに入院や検査で利用する会員の為だけにある病院と勘違いされるほどでした。以上の様なことを考えると医師会病院が会員にとっては、無くてはならない、かけがえのない病院であることは明白であります。

#### 医師会病院の経営危機

医師会病院は、この28年間、あらゆる努力を払い、幾多の医療制度改革の風雪を乗り越って来ましたが、現在、残念なことに医師会病院の経営は危機的状況にあります。これは、旧小泉政権以来の、医療費適正化と称する、医療費削減や包括医療制度の導入により、必死の努力を払っての在院日数の短縮化の結果、一方では、病床利用率の著明な低下が生じ、新入院患者の獲得を必死で頑張らなければならない状況が生じて来ています。

もちろん、これには、昨年9月の小児科本体の鹿児島市立病院への移行も大きな要因ではありますが、基本的には、在院日数の短縮化と病床利用率の低下が根本原因でございます。働く職員にとっては、在院日数の短縮化の結果、ベッド回転率が上がることで、以前に比し、多くの患者を診る必要があります、すなわち、医師会病院のベッド数が、以前に比し、2倍3倍に増えたことに値するわけで、労働という観点からすると2倍3倍働かなければならないわけであり、とりわけ、医師会病院の場合は、経験ある第一線の医師のフィルターにかけられた難しい患者さんが紹介されるので、尚更に、職員の疲労度は極限に達していると考えます。

### 改善策について

ではどのような対策があるのか、一つは、これまでの作業や組織の簡素化を図る見直しを行い、医師会病院の中で働く方々の仕事量負担を軽減することと、出来れば職員の増員が望ましいのですが、(経営の安定化はニワトリが先か卵が先かに類似の議論が生じ、不毛の論戦に発展する可能性を秘めており困難かも知れませんが) 一方では、会員が多くの患者を紹介し、病床利用率を挙げることであります。今回、3月の運営委員会で示されたデータは、会員の紹介率が以前に比し低下しているとのことであります。様々な要因があるとは考えますが、医師会病院は会員にとって難渋する重症患者を受け入れるという、以前からの固定観念を覆し、病床のない診療所や在宅医療を行っている先生方の入院の必要な軽症患者でも受け入れることも必要であります。また、勤務する医師への要望では、開設当時の医師会病院の主旨を十分理解していただき、とにかく専門外であるように見えても、まずは、受け入れて、患者を診ていただく、特に、高齢者などでは複数病変があ

り、意外と自らの領域に関係ない患者に見えても結局は関係のある疾患であったことを経験されたこともあると思います。現在、鹿児島市医師会病院の経営は危機的な状態にあることは、会員の皆様方にご存じのとおりであります。私は市内科医会の立場から医師会病院運営委員会に参加しておりますが、他の専門医会の委員の先生方と共に大いに、責任を痛感し、反省もしています。今後の立て直しのお役に立てるよう努力しようと考えている次第であります。医師会病院は我々会員の病院であり、最新の医療技術と最新の医療機器を備えた、会員の模範となる医療を積極的に展開する理想の病院を目指しており、それなりの投資は医師会会員の立場を守る意味でも必要と考えます。そして、その結果、現在、医師会病院でその努力が稔っていることを、多くの会員の先生方に知っていただきたく勉強会等を開催したいと考えております。そして、会員の先生方には、現在、診療している患者さんの中に、そのような適応のある方はいないのか、もう一度、見直して頂きたいと考えております。

### 医師会会員と医師会病院職員の団結

繰り返しになりますが、医師会病院はわれわれの病院であります。現在の医師会病院の経営状態を、我々会員はもう一度、見つめ直し、反省し、また、勤務医師や職員ももう一度、医師会病院の存在意義の原点に立ち戻り、医師会病院の再生なくして医師会は存在しないとの気概に燃えてほしいものであります。このような努力を続けていけば、必ずや、医師会病院は、再び、日本で確たる鹿児島市医師会が運営する医師会病院になりうることを信じて疑いません。さあ、会員の皆様と医師会病院に勤務する方々と共に手を取り、現在の医師会病院の危機的経営状態を乗り越えていこうではありませんか。

## お知らせ

### 電子カルテ導入に向けて

事務部医療情報室長 楠本 真一

当院のIT化は、ファイルメーカー等を利用した各部署の職員の手作りシステムからスタートしました。その後、平成16年12月に画像ファイリングシステム（Midweb）を導入し、平成18年1月からは患者受付システムを始めとする「総合診療情報システム」の開発を段階的に行い、各部門システム、オーダーリングシステムを構築し、平成21年3月で別表のシステムを構築、現在まで稼働しています。

しかしながら、電子カルテまで至っていないことと、メインとなるサーバ等のハードウェアが導入後6年以上経過したため保守の問題等もあり、より効率的な医療情報システムの整備を行うべく、次期システムへの切り替えを検討し、平成23年8月に電子カルテの導入を決定しました。

平成23年10月に電子カルテ導入検討ワーキンググループを立ち上げ、月1回のペースで開催、各種の問題点等を検討しています。ここで議論されたことは、情報システム委員会で報告し、更に検討を行い、経営会議、担当理事会等で報告しています。

現在は、導入メーカーの選定を行うべく、すでに導入されている施設の見学や、デモンストレーションや操作説明会を開催している段階で、平成24年6月にメーカーを決定、平成25年3月までに導入する計画となっています。

電子カルテ導入と同時に、各部門システムとの連携強化を行い、院内の診療情報の共有化等、医療情報システムの充実を図ります。また、迅速で安定したシステムの構築、業務の効率化、ペーパーレス化等に取り込むと共に、将来的には、会員の先生方との地域連携システムの構築も視野に入れ、検討していく予定です。

稼働中のシステム一覧
画像ファイリングシステム
総合診療情報システム
看護支援システム
オーダーシステム
薬剤管理システム
検体検査システム
栄養管理システム
検診受付システム
放射線管理システム
放射線受付統計システム
放射線レポートシステム
内視鏡レポートシステム
病理細胞診システム
ICU患者集中管理システム
医事会計システム
DPCシステム
EVEシステム
SPDシステム
会計システム

#### 【基本理念】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

#### 【基本方針】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

新入職員（新任医師）紹介



産婦人科医長

<プロフィール>

(H 23.12. 1～)  
名 前 やまざき ひでき 山崎 英樹  
出身 県 鹿児島県  
出身 大学 福岡大学  
前勤務先 鹿児島大学病院  
趣 味 散歩

平成23年12月より勤務しております。前勤務先では主に婦人科良性疾患の内視鏡手術を担当していました。会員の先生方のご期待に応えられるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸器内科医長

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
名 前 いわがわ じゅん 岩川 純  
出身 県 鹿児島県  
出身 大学 鹿児島大学  
前勤務先  
趣 味 読書・ゴルフ  
この頃自転車に目覚めております

取得資格  
医学博士 07年3月 学位取得(鹿児島大学)年鹿児島大学学位授与  
日本内科学会認定医 日本内科学会総合内科専門医  
日本呼吸器学会 専門医 日本がん治療認定医 ICID

平成7年卒の17年目、浜崎先生の後任で参りました。よりよい呼吸器内科となるように努力いたします。



循環器内科医長

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
名 前 ありま りょういち 有馬 良一  
出身 県 鹿児島県  
出身 大学 鹿児島大学  
前勤務先 鹿児島市立病院  
趣 味 居酒屋探訪

約10年ぶりの赴任となります。懐かしい気持ちもありますが、それ以上に早く病院のシステムに慣れ、皆様のご迷惑にならないようにしたいと思っています。よろしくお願致します。



泌尿器科医長

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
名 前 ありむら ひろし 有村 博史  
出身 県 鹿児島県  
出身 大学 大分医科大学  
前勤務先 阿久根市民病院  
趣 味 釣り・ゴルフ(練習)

平成7年に鹿児島大学泌尿器科へ入局し、今年4月から鹿児島市医師会病院へ赴任する事になりました。色々ご迷惑をおかけする事もありますが頑張りますのでよろしくお願致します。



循環器科医師

<プロフィール>

(H 24. 1. 1～)  
名 前 ふくなが けんご 福永 研吾  
出身 県 鹿児島県  
出身 大学 鹿児島大学  
前勤務先 阿久根市民病院  
趣 味 スポーツ観戦

3年ぶりの出戻りとなりました。循環器の急性期疾患等で力になればと思います。よろしくお願致します。



外科医師

<プロフィール>

(H 24. 1. 1～)  
名 前 やすだ ひろし 安田 洋  
出身 県 栃木県  
出身 大学 鹿児島大学  
前勤務先 鹿児島市立病院  
趣 味 音楽鑑賞

今年の1月から医師会病院勤務となり、早くも3ヵ月が過ぎようとしています。鹿児島の住人の皆様、そして開業医の先生方の信頼が厚い病院で働いているのだと、日々痛感しています。また、コメディカルの方々との距離が近く、一体感を持って仕事に臨める素晴らしい環境です。その分、豊富な症例と急患で忙しいですが、少しでも前進できるよう頑張りますので、今後ともよろしくお願致します。

新入職員（新任医師）紹介



麻酔科医師

<プロフィール>

(H 24. 1. 1～)  
 名 前 <sup>やまな</sup> 山名 <sup>とよこ</sup> 登紀子  
 出身県 鹿児島県  
 出身大学 鹿児島大学  
 前勤務先 鹿児島大学病院  
 趣 味 観光

こんにちは。麻酔科に平成 23 年に入局した山名登紀子です。医師会病院で平成 24 年 1 月から働かせていただいています。毎日多くのことを学べる職場だと感じています。がんばりますのでよろしくお願ひします。



小児科医師

<プロフィール>

(H 24. 3. 1～)  
 名 前 <sup>はしぐち</sup> 橋口 <sup>しゅう</sup> 祥  
 出身県 鹿児島県  
 出身大学 鹿児島大学  
 前勤務先 鹿児島大学病院  
 趣 味 登山・水泳・軟式テニス

平成 23 年に鹿児島大学小児科に入局し 3 月から初めての市中病院である医師会病院に勤務しています。医師会病院には自分が 20 代の頃入院した事があり先生や看護師の方がとても親切に看病してくださったのを覚えております。医師会病院は大学とは異なる疾患を扱っていると考えますので感染症等の勉強をして微力を尽くし少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひ致します。



神経内科医師

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
 名 前 <sup>のむら</sup> 野村 <sup>みわ</sup> 美和  
 出身県 鹿児島県  
 出身大学 大分大学  
 前勤務先 鹿児島大学病院  
 趣 味

平成 22 年に鹿児島大学神経内科に入局し、大分県立病院、鹿児島大学病院での勤務を経て、4 月より医師会病院勤務となりました。色々とお迷惑をおかけすることも多いかと思ひますが、どうぞよろしくお願ひ致します。



呼吸器内科医師

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
 名 前 <sup>さかうえ</sup> 坂上 <sup>こうた</sup> 公太  
 出身県 鹿児島県  
 出身大学 鹿児島大学  
 前勤務先 鹿児島大学病院  
 趣 味 音楽鑑賞・一人旅

平成 23 年に鹿児島大学呼吸器内科に入局し、4 月から勤務させて頂いております。急性期疾患に慣れておらず、ご迷惑をおかけすることと思ひますが、何卒よろしくお願ひ致します。



消化器内科医師

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
 名 前 <sup>すだ</sup> 柊元 <sup>ひろき</sup> 洋紀  
 出身県 鹿児島県  
 出身大学 鹿児島大学  
 前勤務先 田上病院  
 趣 味 釣り

前勤務先の田上病院では、1 人で消化器内科を行ってました。今回、先輩方が数多くいらっしゃる医師会病院で勤務することとなり、さらに勉強させて頂きます。ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、よろしくお願ひいたします。



外科医師

<プロフィール>

(H 24. 4. 1～)  
 名 前 <sup>いとう</sup> 伊藤 <sup>しんじ</sup> 欣司  
 出身県 福岡県  
 出身大学 鹿児島大学  
 前勤務先 鹿児島市立病院  
 趣 味 DIY

今回 2 度目の医師会病院赴任となります。全力で診療にあたります。よろしくお願ひ致します。

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.21  
 創刊日：平成17年8月10日  
 発行日：平成24年4月20日（年3回 4・8・12月発行）  
 発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号  
 鹿児島市医師会病院 院長 田畑 肇雄  
 担 当：医療連携・相談室  
 T E L：099-254-1125（代表）  
 T E L：099-254-1121（医療連携・相談室）  
 F A X：099-254-1308（医療連携・相談室）  
 ホームページ：http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp  
 ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。